

## 第2回 上川町層雲峡温泉白水沢地区等地熱研究協議会

日 時：平成25年1月24日（木）

13：30～16：00

場 所：上川町役場大会議室

1. 開 会

2. あいさつ

会長 池 田 隆 司

3. 第1回会議議事概要等

4. 議 題

(1) 地熱発電と温泉資源との共生

地熱発電事業における温泉資源への影響と資源確保等

産業技術総合研究所 顧問 野田 徹郎 様

(2) 環境影響評価について

環境影響評価の方法と内容等

環境省総合環境政策局環境影響評価課 審査官 中島 治美 様

(3) 意見交換

5. 閉 会

## 第1回上川町層雲峡温泉白水沢地区等地熱研究協議会

H24. 11. 14(水) 13:00～15:45

### 【まとめ】

「国立公園内での開発基準等の現状について」をテーマに、次の二者から説明を受けた。

1. 層雲峡白水沢地熱開発の経過  
～過去の調査結果、北海道が策定した発電計画等～  
講師:地質研究所 資源環境部 部長 八幡正弘 様
2. 国立・国定公園における発電事業の現状  
～現状と国立・国定公園内における地熱開発の取扱い～  
講師:環境省自然環境局国立公園課 課長補佐 吉松重記 様

特に、質疑等はなく全体を通して意見要望をいただいた。

※環境省は、開発の基準を示すべきだ。事業者は開発コストやリスクが高い。～場所によってはそれぞれ条件が異なるため一律に決めることは出来ない。ステップ by ステップで判断する～

### ・・・全体的な意見・要望等・・・

1. 過去の調査結果よりも、新しい環境の科学的データを基に地熱開発のあり方を検証すべき。近年の状況を把握することが必要
2. ニュートラルな立場から善し悪しを決めるに当たり、判断材料として色々なデータが必要
3. 開発を推進する組織を設立し、進めていく必要がある。
4. 上川町にある有効な資源として考えるならば積極的に協力したい。
5. 層雲峡温泉への影響があるのか。
6. 周辺地区の昆虫生殖分布は、調査結果は殆ど同じであった。地熱調査を行うに当たっても十分な自然配慮が必要
7. 自然景観等十分に配慮した中で有効に活用できるのであれば積極的に進めてもらいたい。
8. 公園内の景観に影響があってはならないが、自然エネルギーを有効に活用していくべき。
9. 地熱発電の取扱いも大きく変化してきているが、公園の地種区分についても見直しの時期に来ているのではないか。  
※環境省は、基本的には保護エリアを広めていく考えである。
10. 大雪の自然景観は大きな財産であり、これを損傷してまでも開発を優先ではなく、事業者は共生を図るなど検証しながら進めてほしい。

全般的に、推進する意見が多くある中で、温泉源への影響、自然景観への影響など解決しなければならない課題も示された。地表調査等を行い化学的データを基に検証していくことが必要との意見が強く出された。



上川町層雲峡温泉白水沢地区等地熱研究協議会出席者名簿

NO	役職	所 属	職 名	氏 名	摘 要
1	会長	北海道大学大学院 理学研究院	教授	池 田 隆 司	
2		層雲峡観光協会・温泉旅館組合	会長・組合長	西野目 信 雄	欠席
		層雲峡観光協会	専務理事	宍 戸 重 之	代理出席
3		層雲峡観光協会・温泉旅館組合	理事・副組合長	嶋 崎 真 市	
4		層雲峡温泉町内会	会長	北 川 實	
5		上川町自然科学研究会	会長	保 田 信 紀	
6		上川町商工会	会長	鎌 田 康 雄	
7		上川中央農業協同組合	組合長	新 井 光 雄	欠席
		上川中央農業組合上川支所	支所長	端 場 誠 二	代理出席
8		上川町議会運営委員会	委員長	安 部 逸 雄	
9		北海道上川総合振興局	主幹	布 谷 達 夫	
10		北海道立総合研究機構 地質研究所	部長	八 幡 正 弘	
11	副会長	上川町役場	副町長	岩 崎 幸 一	
12					

相談役	元上川白水沢地熱札幌事務所長		酒 匂 純 俊	
-----	----------------	--	---------	--

オブザーバー	環境省北海道地方環境事務所	国立公園保全整備課長	廣 瀬 勇 二	
"	"	専門官	太 田 貴 智	
"	"	係長	細 貝 拓 也	
"	" 上川自然保護官事務所	保護官	大 澤 隆 文	
"	経産省北海道経済産業局	課長補佐	立 野 雅 樹	
"	上川中部森林管理署	業務第1課長	三 上 敬 一	
"	"	治山課長	小 島 隆	
"	旭川開発建設部	上席治水専門官	西 村 義	
"	地質研究所	研究主幹	高 橋 徹 哉	
"	"	主査	柴 田 智 郎	
"	丸紅(事業者)	部長代理	上 垣 雅 裕	
"	"	部長代理	苅 部 桂 太	

事務局

NO	役職	所 属	職 名	氏 名	摘 要
1	事務局長	政策推進室	参事	谷 博 文	
2		政策推進室	参事	渡 辺 敏 雄	
3		企画総務課	課長	泉 勝 雄	
4		企画総務課	課長補佐	昔 農 正 春	
5		企画総務課	主査	藤 井 吉 光	
6		企画総務課	主査	金 野 哲 也	

# 上川町層雲峡温泉白水沢地区等地熱研究協議会

層雲峡温泉白水沢地区は、過去(S43～47年)に地熱開発を目的に調査を行い5本の井戸、更にH3年に1本の井戸を掘削し、有望な地熱資源が確認されている。しかし、国立公園の規制などで開発は進まず、上川町はH8年に地熱開発を当分の間、凍結する方針を決定した。

昨今のエネルギー事情から再生可能エネルギーとしての地熱の関心が高まり、また、今年3月に環境省が今までの取扱いを見直す国立・国定公園内における地熱発電事業の新たな通知が出されたことに伴い、この凍結方針を解除し地熱開発の可能性を検討することとした。

上川町は、層雲峡温泉白水沢地区を含む大雪山国立公園内の地熱エネルギーの有効活用について研究・検討する研究協議会を設立し、現状の問題点・課題を洗い出し、地熱発電の可能性とその環境影響を認識し、関係する情報を共有化して地域間の合意形成に向けて広く研究協議する。

## 第1回「国立公園内での開発基準等の現状について」 H24. 11. 14(水)

- (1) 層雲峡白水沢地熱開発の経過  
過去の調査結果、北海道が策定した発電計画等  
講師：地質研究所 資源環境部 部長 八幡正弘 様
- (2) 国立・国定公園における発電事業の現状  
現状と国立・国定公園内における地熱開発の取扱い  
講師：環境省自然環境局国立公園課 課長補佐 吉松重記 様
- (3) 白水沢現地情報

※白水沢地熱開発の経緯と開発基準等の現状の把握と課題等の共通理解を図る。

## 第2回「地熱発電と温泉資源との共生と環境影響評価について」 H25. 1. 24(木)

- (1) 地熱発電と温泉資源との共生  
地熱発電事業における温泉資源への影響と資源確保等  
講師：産業技術総合研究所 顧問 野田徹郎 様
- (2) 環境影響評価について  
環境影響評価の方法と内容等  
講師：環境省総合環境政策局環境影響評価課 審査官 中島治美 様

※温泉資源との関係と環境影響評価の方法・内容等の共通理解を図る。

## 第3回「地熱資源開発と自然環境保護について」 H25. 2. 26(火)

- (1) 地熱資源開発と自然環境保護の必要性  
オブザーバーからそれぞれの立場における意見や説明を受け、共生の方法を検討する。
- (2) 地表調査の方法と内容等  
事業者(丸紅株式会社)から予定される方法・内容について説明を受け共通理解を図る。

### 【まとめ】

- ・「現状の把握」と「開発・自然環境保護の必要性」について、研究協議会を通して相互理解と地域間の合意形成
- ・今後の方向性の確認